

今こそ考えるべきデジタル・クライシスの話(9)

「#検察庁法改正案に抗議します」は  
Botによる投稿か? ネット世論分析の必要性

文 佐々木寿郎

text by Toshio Sasaki

内

閣の判断によって検察官の定年延長を可能にする検察庁法改正案に関して、ネット上では「#検察庁法改正案に抗議します」というハッシュタグの付いた投稿が大きく拡散されています。SNSの投稿分析で知られる鳥海不二夫准教授の調査<sup>※1</sup>によれば、「#検察庁法改正案に抗議します」を含む投稿は、「5月8日20時から5月11日15時までの間に、リツイートを含めて473万2473件、リツイートを除くと、56万4797ツイート」されたとしています。またNHKニュース<sup>※2</sup>によれば、「#検察庁法改正案に抗議します」というハッシュタグの付いた投稿は、2日間で延べ480万件にもなり、10日には「母の日」を抑えて長時間ツイッターのトレンドになったと報じています。

投稿が短期間で急激に拡散をされたことを受け、多くの国民が改正法案に反対しているという情報が伝達されているように思われます。しかし480万件の投稿が行われていることを根拠に、国民の大半が改正法案に反対しているとするのは誤りであると考えられます。480万件という数字は見せかけであり、実態の反対者数を水増ししている可能性があるためです。

例えばBot(ボット)と呼ばれる自動化されたアカウントの存在が考えられます。ボットとは機械的に投稿やリツイートを行うことができ、1アカウ

ントで大量の投稿を行うことができる仕組みです。このボットを用いて同じ投稿を繰り返し行い、あるいは大量にリツイートすることで大きく投稿数を増加させることができます。実際にボットを使用して1日に数十から数百件も投稿を行う事例<sup>※3</sup>も発見されています。

また鳥海准教授の調査によれば、20回以上「#検察庁法改正案に抗議します」が含まれるツイートを投稿したアカウントは、全体の10%ほどだと試算されています。このことから一部のアカウントが同じ内容を、表現を変えて、繰り返し投稿している事実が明らかになっています。さらに、リツイートされた投稿の半分以上は、70回以上リツイートしたアカウントによって投稿されたことも明らかになっています。この70回以上リツイートしたアカウントは、「#検察庁法改正案に抗議します」に関与した全アカウントの2%程度になります。すなわち全体の約2%のアカウントの行ったリツイートが、全体のリツイートの半数以上を占めるということが分かります。

これらの事実から想定されることは、一部の検察庁法改正案に反対するアカウントが、「#検察庁法改正案に抗議します」というハッシュタグの付いた投稿を見つけては、リツイートをし、投稿を繰り返していたのではないかと推測できます。少数のアカウントが実態以上に大きく拡散していた可能性がある

るので。5月18日には検察庁法改正案について国会での成立を見送るようになりました。ネットの投稿は政治の世界においても大きな影響を与えるようになっていきます。ネット上の投稿について分析を行い、正しく実態を把握しなければ、判断を誤ってしまう可能性があるのです。

Profile

シエンプレ株式会社 代表取締役社長  
1976年、長野県生まれ  
2009年 シエンプレ株式会社取締役に就任し、ネット上の風評被害対策、webリスク対策を立ち上げる  
2012年 同社代表取締役に就任  
2014年より警察庁のサイバーパトロール業務を受託し、  
2015年には業界団体一般社団法人WEBリスク対策事業者協会を立ち上げ、代表理事に就任。業界の健全化に取り組んでいる

SIEMPLE

